

職場の熱中症予防のためのチェックシート

☑ あなたの職場の対策は万全か、自主点検してみましょう！

<input type="checkbox"/> ①WBGT値(暑さ指数)を把握していますか	➡	WBGT基準値を大幅に超える場所で作業を行わせる場合は、単独作業を控え、休憩時間を長めに設定しましょう。
<input type="checkbox"/> ②休憩場所は整備していますか	➡	涼しい休憩場所を設け、身体を適度に冷やすことのできる物や設備(水、おしぼり、シャワー等)なども備えましょう。
<input type="checkbox"/> ③緊急時に搬送を行う病院を把握していますか	➡	近隣の病院、診療所の情報を把握した上で、救急処置の手順を関係者に周知しましょう。
<input type="checkbox"/> ④熱に慣れ、環境に適応するための「順化」期間を設けていますか	➡	労働者が暑さに慣れていない・適応していない場合は、7日以上かけて高温多湿の環境での作業時間を次第に長くしていきます。
<input type="checkbox"/> ⑤自覚症状の有無にかかわらず、労働者に水分・塩分を摂取させていますか	➡	水分や塩分の摂取を確認する表を作るなどして摂取状況を確認し、徹底を図りましょう。
<input type="checkbox"/> ⑥労働者に、透湿性・通気性のよい服や帽子を着用させていますか	➡	クールジャケット、日よけ用の帽子、冷却グッズなどを活用しましょう。
<input type="checkbox"/> ⑦睡眠不足・体調不良など労働者の健康状態に配慮していますか	➡	朝礼などの際に、労働者の体調を確認し熱中症の発症に影響を与えるおそれがあるかを確認しましょう。
<input type="checkbox"/> ⑧熱中症を予防するための労働衛生教育を行っていますか	➡	作業管理者や労働者に対し、熱中症の症状や予防方法、緊急時の救急処置等について教育を行いましょう。

中央労働災害防止協会(中災防)は、熱中症防止のための図書・用品をご用意しています。



図書



ポスター



熱中症
指標計

ネック
クーラー



STOP! 熱中症



熱中症は屋外作業だけでなく、屋内作業でも多数発生しています。

2019年の職場における熱中症による死傷者、死亡者は記録的な猛暑となった2018年よりは減少したものの、依然として厳しい事態となっています。

そこで厚生労働省と中央労働災害防止協会(中災防)をはじめとする労働災害防止団体などは、4月を準備期間、7月を重点取組期間とする「STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン」(2020年5月1日~9月30日)を今年も積極的に展開し、職場の取り組みをサポートします。

早めの予防対策で、熱中症による死亡災害ゼロを目指しましょう。

図書・用品のお問い合わせは、
中災防出版事業部

TEL 03-3452-6401 (受注専用)

URL <https://www.jisha.or.jp/order/index.php>

<https://www.jisha.or.jp/> 中災防

検索

JISHA 中災防
Japan Industrial Safety & Health Association



熱中症は、さまざまな業種、さまざまな状況で発生します

職場における熱中症による死傷者数の推移

職場における熱中症による死傷者数は2011年以降、高止まりで推移してきましたが、2018年は一気に1,000人を超え、2019年も約800人と厳しい状況が続いています。



WBGT計で確認しよう！

気温はそれほど高くなくても、湿度が高い時には熱中症にかかる危険度が高まります。熱中症は、気温・湿度・風速・輻射熱が複雑に影響し合って起こります。

WBGT(湿球黒球温度)で示される暑さ指数の単位は、気温と同じ摂氏度(°C)ですが、その値は気温とは異なります。熱中症対策の指標として、WBGT計で確認しましょう。

WBGT値を知って熱中症予防!

熱中症予防のための行動指針

- 危険** 31℃以上 (Danger!)
- 嚴重警戒** 28~31℃ (Severe Warning!)
- 警戒** 25~28℃ (Warning!)
- 注意** 25℃未満 (Caution!)

尿がしばらく出ていない場合

体温が38度以上ありそうな場合

1分間の心拍数が100以上ある場合

工具を落とす、転倒するなどの症状がある場合

言動がおかしい場合(意識障害がある)

これらは**熱中症**の危険サイン
すぐに医療機関を受診させましょう。

熱中症の救急処置
(現場での応急処置)

意識はありますか？

- 意識がない、呼びかけに応じない、全身が痛い等 → 意識は不明である → 救急隊を要請してください
- 意識が清明である → 救急隊を要請してください

救急隊を待つ間…

- 体表面を露出させ、うちわなどで冷風を送りましょう。
- 仰向けや横向きに寝かせ、足を上げて、頸部、わきの下、太ももの付け根などの大きな動脈が通っている部位を冷却剤などで冷やしましょう。
- 手足を末梢から中心部に向けてマッサージしましょう。

救急隊を要請してください

- 涼しい環境へ避難。脱衣・冷却してください
- 水分等を自力で摂取できない場合は…

医療機関へ搬送してください

中小規模事業場安全衛生相談窓口(9:00~17:00)

熱中症対策など、職場の安全衛生に関するご相談は中災防へ！

※中小規模事業場の事業主・担当者以外の方からも無料で相談をお受けしています。

中災防本部相談窓口 TEL:03-3452-6296 メール:jisha-soudan@jisha.or.jp

北海道安全衛生サービスセンター	TEL:011-512-2031	近畿安全衛生サービスセンター	TEL:06-6448-3450
東北安全衛生サービスセンター	TEL:022-261-2821	大阪労働衛生総合センター	TEL:06-6448-3464
関東安全衛生サービスセンター	TEL:03-5484-6701	中国四国安全衛生サービスセンター	TEL:082-238-4707
中部安全衛生サービスセンター	TEL:052-682-1731	同 四国支所	TEL:087-861-8999
同 北陸支所	TEL:076-441-6420	九州安全衛生サービスセンター	TEL:092-437-1664